

前畑弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議 跡地利用に関する報告書【概要版】

本報告書は、平成23年1月に日米合同委員会で合意された「前畑弾薬庫跡地（以下「跡地」）の移転・返還」をより強力に促進すべく、「前畑弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議」（以下「有識者会議」）が、跡地利用に関して意見集約を図ったものです。

1. 概要（現地の状況）

【面積】

- ・約58ha（約58万㎡）
- ※平地部分の割合：概ね3割（約17ha）と試算（緑地部分を除く）

【都市計画上の指定】

- ・工業専用地域、市街化調整区域
- ・臨港地区（分区未指定）

【弾薬庫施設の数】

- ・トンネル式 12棟
- 建造物式（小屋組木造）22棟 合計34棟

【位置図】



出典：国土地理院の電子地形図 25000

2. 現況

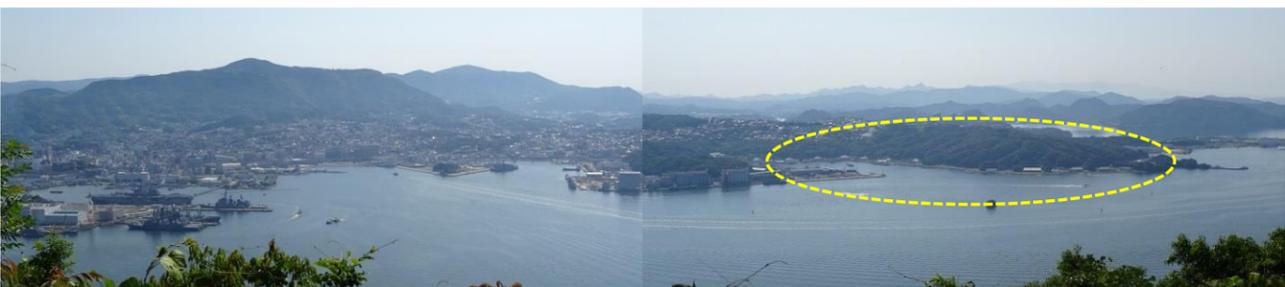


建造物式の弾薬庫（第六下瀬火薬庫及び周辺）

トンネル式の弾薬庫（隧道式無煙火薬庫）



弾薬庫の全景（港内視察による）



対岸の赤崎岳からの景観（黄色枠が現地）

3. 跡地利用の将来像と、2つの跡地利用の考え方（担うべき役割）

将来像

1) 自然と歴史が共存する観光・景観のスポット

2) 豊かな緑に包まれた、快適な生活環境都市

3) 佐世保の地の利を活かした港湾・産業拠点

担うべき役割①

自然的・歴史的資源を活かした観光振興

豊かな緑地環境及び海からの美しい景観、さらには弾薬庫の歴史的資産などを保全し、またこれらの資源を最大限に活かしながら、観光客の誘致促進など観光振興を目指します。

担うべき役割②

立地環境を活かした産業振興

豊かな緑地環境及び海からの美しい景観を保全しつつ、隣接する工業地の既存産業との連携などによる港の振興を目指すとともに、関連する企業立地などによるものづくり産業の振興を目指します。

ゾーン

文化・交流ゾーン

歴史記念ゾーン

斜面緑地保全、水辺の憩いゾーン

緑の空間創出

安全安心な防災ゾーン

役割

- ①歴史文化を活かした魅力創出
- ②地域資源を活用した観光客の誘致促進

- ③景観資源の保全と活用

- ④既存の貴重な自然資源の魅力アップによる生活環境の質の向上

- ⑤生活環境を支えるネットワークづくり

- ⑥災害に強い安全安心なまちづくり（災害時に対応できる環境づくり）

ゾーン

産業創出ゾーン

みなとの振興ゾーン

歴史記念ゾーン

斜面緑地保全、水辺の憩いゾーン

緑の空間創出

安全安心な防災ゾーン

役割

- ①中心市街地に近接する立地特性を活かし、機能分担による連携が可能な企業誘致（関連する企業立地）による産業振興

- ②地場産業である港湾の再生による地域浮揚

- ③景観資源の保全と活用

- ④既存の貴重な自然資源の魅力アップによる生活環境の質の向上

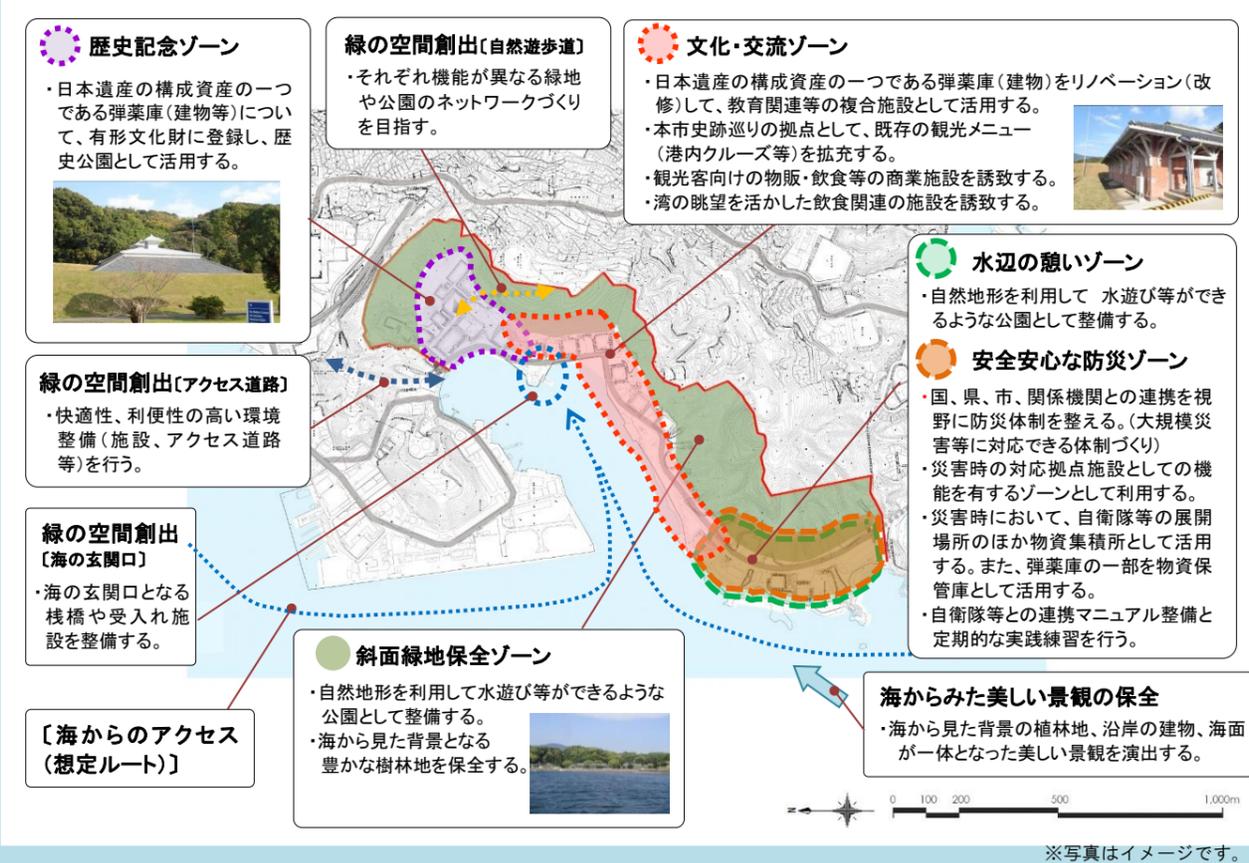
- ⑤生活環境を支えるネットワークづくり

- ⑥災害に強い安全安心なまちづくり（災害時に対応できる環境づくり）

≪概念図（イメージ図）≫

（跡地が担うべき役割 ①）自然的・歴史的資源を活かした観光振興

豊かな緑地環境及び海からの美しい景観、さらには弾薬庫の歴史的資産などを保全し、またこれらの資源を最大限に活かしながら、観光客の誘致促進など観光振興を目指します。

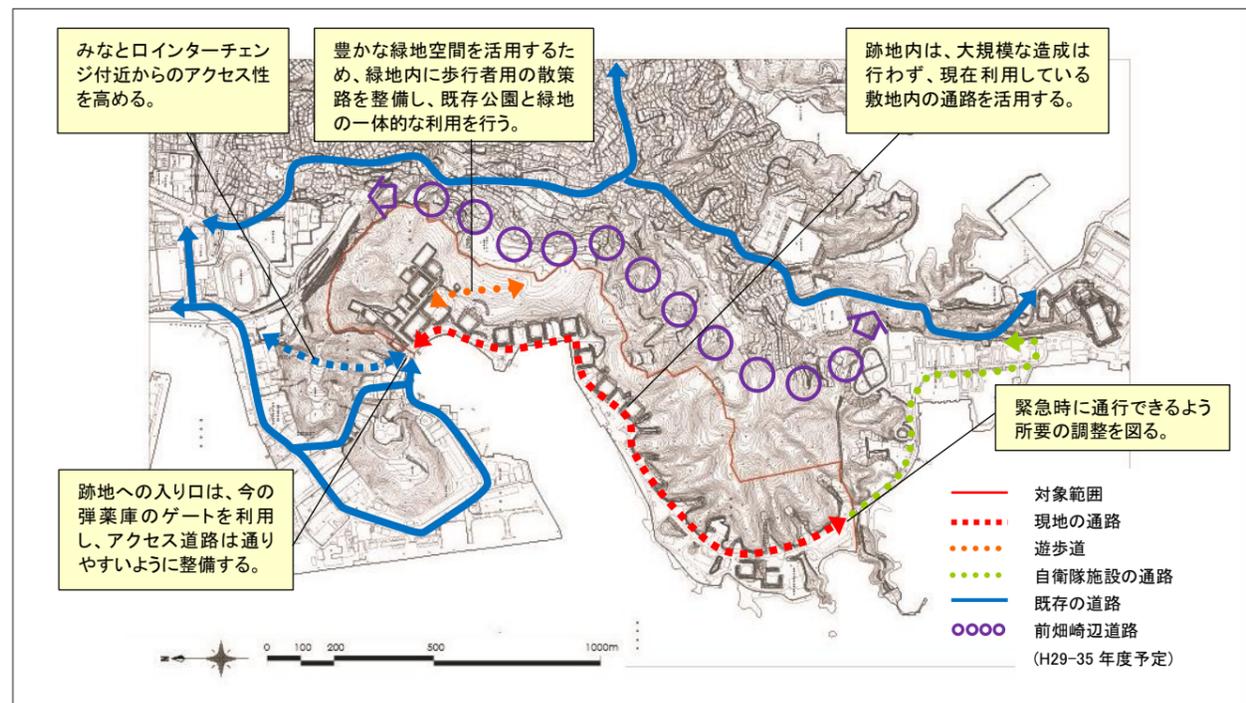


（跡地が担うべき役割 ②）立地環境を活かした産業振興

豊かな緑地環境及び海からの美しい景観を保全しつつ、隣接する工業地の既存産業との連携などによる港の振興を目指すとともに、関連する企業立地などによるものづくり産業の振興を目指します。



【動線の基本的な考え方】



4. 跡地利用構想の実現に向けて

有識者会議として、一年一日でも早い前畑弾薬庫の移転返還の実現を願い、跡地利用の考え方を意見集約しこの報告書に取りとめました。今後、佐世保市による跡地利用構想の策定、さらに将来、詳細な計画等の検討に取り組まれる際、この思いを具現化できることを望みます。

【備考】前畑弾薬庫の移転・返還について《H23.1日米合同委員会での合意内容(抜粋)》

【返還条件(抜粋)】

佐世保弾薬補給所(前畑弾薬庫)は、針尾島弾薬集積所の施設・区域(隣接する水域を埋め立てることにより生じる土地を含む。)内に、現有の規模・機能の範囲内で移設すること。



※図はイメージです。